

兼松アドバンスド・マテリアルズ

今期売上高300億円目指す

非鉄事業、M&Aも視野

兼松アドバンスド・マテリアルズ（KAM、社長・浅羽鉄平氏）は今期（2026年3月期）、売上高を現行から約15%増加となる300億円まで引き上げる。主力の非鉄金属事業では銅合金条などの販売数量増加に向けて既存取引拡大およびM&Aも検討する。このほか兼松寒川が手掛ける農業DX分野などにも注力し、事業基盤の強化とさらなる成長を目指す。

KAMは銅合金条などの非鉄金属や電子材料・部品、化学品に加え、21年に子会社化した兼松寒川が鉄鋼素材や電気電子機器など販売に取り組んでいる。最近では非鉄金属事業の再強化を目的に、23年に非鉄金属部を新設していたが、今年5月には非鉄金属部の下に高機能材料課とサーキュラーソリューションズ課を設置した。

ンズ課は高機能材料課が材料販売を行う顧客のニーズを拾い、アップサイクルの観点から付加価値を付けたサービスの提供を目指していく。海外においてもグローバル調達力を強化するために、華東地区の無錫拠点に非鉄金属の経験が豊富な人員を厚く配置。顧客の現地調達化のニーズに応えるべくグローバル体制を構築していく。また米国ではトランプ関税の行方に注視をしつつ、「米国での加工も必要に応じて考えていかなければならない」（同）とした。

非鉄金属以外では、特に農業DX分野に注力する。兼松寒川が取

し、農業分野で事業を拡大させていく考え。仙台と中国・大連拠点を移転

兼松アドバンスド・マテリアルズは仙台と中国・大連の販売拠点を移転する。2020年に開設した仙台支店は、開設から5年ではあるもののこの数年間の増員に伴い今後のさらなる事業拡充を見据えて事務所の移設を決めた。新事務所はアイバンネット仙台中央ビルで、9月末に移転する計画。

中国では、大連保稅区兼松工貿の大連拠点を8月初旬に大連開發区中心市街へ移転する。

グループ2社を統合

兼松アドバンスド・マテリアルズは4月1日付でグループ会社の兼松寒川が兼松ケイユーを吸収合併したと発表した。兼松ケイユーの事業は兼松寒川が引き継いだ。これに伴い兼松寒川は鉄鋼素材部と農業梱包資材部、電気・電子材料部の3部体制に組織再編した。

